



## 2026年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年5月14日

上場会社名 ジャパンクラフトホールディングス株式会社 上場取引所 東 名  
 コード番号 7135 URL https://www.jcraft-hd.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀 孝子  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 企画部長 (氏名) 若園 和章 TEL 052-725-8815  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年6月期第3四半期の連結業績（2025年7月1日～2026年3月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年6月期第3四半期	10,548	△0.4	120	8.8	25	△61.4	191	—
2025年6月期第3四半期	10,588	△10.7	111	—	65	—	△170	—

(注) 包括利益 2026年6月期第3四半期 133百万円 (—%) 2025年6月期第3四半期 △168百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年6月期第3四半期	5.13	4.83
2025年6月期第3四半期	△4.58	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年6月期第3四半期	11,492	3,716	32.1
2025年6月期	11,555	3,694	31.8

(参考) 自己資本 2026年6月期第3四半期 3,694百万円 2025年6月期 3,672百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年6月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2026年6月期	—	0.00	—	—	—
2026年6月期（予想）	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2026年6月期の連結業績予想（2025年7月1日～2026年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,598	3.9	334	408.7	262	—	178	—	4.77

(注) 1 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無  
新規 ー 社 (社名) 、除外 ー 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年6月期3Q	37,341,680株	2025年6月期	37,341,680株
② 期末自己株式数	2026年6月期3Q	21,014株	2025年6月期	20,948株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年6月期3Q	37,320,697株	2025年6月期3Q	37,320,733株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 3 ページ「1. 経営成績の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(四半期連結貸借対照表に関する注記) .....	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	11
(重要な後発事象) .....	11

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業の設備投資の拡大や個人消費の改善により緩やかな回復基調が続きました。一方で、物価上昇の継続や米国の関税政策、中東情勢の緊迫化等による景気の下振れリスクが存在し、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属する手芸業界及び出版業界においても、原材料価格の高騰によるコスト上昇に加え、手芸コーナーの充実を図る百貨ショップとの競合激化や趣味の多様化、愛好者の高齢化によるユーザーの減少など、経営環境は一層厳しさを増しております。

このような状況のなか、当社は、グループ経営理念『手づくり』を通して豊かな心を育み幸せを紡ぐ企業グループへ」とその理念に基づいたサステナビリティ方針を掲げ、環境・社会・ガバナンス面での各種課題への継続的な取組みを通じて持続可能な社会の実現に貢献したいと考えております。このような考えのもと、足元の経営環境を踏まえ、当連結会計年度を初年度とする新中期経営計画（2026年6月期から2028年6月期）を2025年9月に公表いたしました。手芸市場における持続的な成長実現に向け、手芸の裾野拡大、収益性の向上、グループシナジーの深化の3つを骨子に据え、ライトユーザーの取り込み強化や、グループ各社の強みを生かした商品開発による他社との差別化、グループ各社の仕入・マーケティングの機能一元化に向けた取組みを推進しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高105億48百万円（前年同四半期比0.4%減）、営業利益1億20百万円（前年同四半期比8.8%増）、経常利益25百万円（前年同四半期比61.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億91百万円（前年同四半期1億70百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

### (小売事業)

小売事業では、藤久株式会社（以下、「藤久」という。）が営む「クラフトハートトーカー」ブランドを中心とした店舗とECにおいて様々な施策に取り組んでまいりました。

前連結会計年度より継続している若年層を中心とした編み物ブームにより、編み物関連商品は引続き好調に推移しており、国内外の毛糸や編み物関連商品を取り扱うポップアップショップ「旅する毛糸店」は、開催各地でたくさんのお客様にご来店いただき、好評いただいております。

入園入学準備に伴う手芸需要が、少子化や既製品の増加により縮小傾向にあること等も影響し、生地の上上は厳しい状況にあります。定期的なミシン催事や入園入学に合わせたキャンペーンの効果が表れ、ミシンの売上は好調に推移いたしました。さらに、店舗とECで「いちご」をテーマとした商品のキャンペーンを行う等、需要の変化に対応し、入園入学関連以外の施策展開も併せて実施することで売上確保に努めております。

また、小学生を中心に「シール交換」がトレンドとなりシールへの需要が高まる中で、BtoB事業においてシールの在庫を確保し、書店や雑貨店等への販売が好調となったことも売上に貢献しました。

店舗網については、東北地区で1店舗、関東地区で1店舗、近畿地区で2店舗、沖縄地区で1店舗の閉鎖を実施した一方、東北地区にて1店舗、中部地区にて1店舗、沖縄地区にて1店舗新規出店し、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は212店舗となりました。

これらの結果、小売事業の売上高は83億64百万円（前年同四半期比1.2%増）、営業利益は3億23百万円（前年同四半期比10.0%増）となりました。

(出版・教育事業)

出版・教育事業では、株式会社日本ヴォーグ社(以下、「日本ヴォーグ社」という。)を中心に様々な施策に取り組んでまいりました。編み物ブーム継続により、編み物関連書籍は堅調な売れ行きを維持しており、2025年10月下旬に発売した初心者向け書籍は、発売から3か月で3回重版となる等、好調に推移いたしました。また、2025年11月から12月にかけて、日本ヴォーグ社本社にて、「第9回キルトジャパンコンテスト作品展」等の様々なパッチワークキルト展を開催しました。多くのお客様にご来場いただき、キルトの奥深い魅力を伝え、来場者から高い評価を得る展示となりました。自社ECサイト「手づくりタウン」では、2025年12月より有料会員制度を開始し、顧客ロイヤルティ向上及び継続的な利用促進を目指し、EC事業における収益基盤強化を図っております。不採算事業の見直し等構造改革を推進する中で前年同期に比べ減収となりましたが、利益面は着実に改善しております。

株式会社ヴォーグ学園(以下、「ヴォーグ学園」という。)では、新たな取組みである「手芸検定」の2026年1月の検定実施に向けて、例題50問を特別公開する早期申込みキャンペーンを実施いたしました。SNS等でも周知を図り、受験者増加に寄与しました。

これらの結果、出版・教育事業の売上高は22億39百万円(前年同四半期比5.8%減)、営業利益は10百万円(前年同四半期比506.3%増)となりました。

なお、当社は、2026年4月30日開催の取締役会において、当社の連結孫会社であるヴォーグ学園の全株式を譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2026年5月1日に譲渡いたしました。これに伴い、ヴォーグ学園は当社の連結範囲から除外されますが、その影響は軽微であります。なお、2026年6月期連結決算において、子会社株式売却益を特別利益に計上する見込みです。2026年6月期連結決算に与える影響は現在精査中であり、今後、開示すべき事項が発生した場合には速やかにお知らせいたします。詳細は11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(重要な後発事象)」をご覧ください。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ62百万円減少し、114億92百万円となりました。流動資産は71百万円増加し、76億96百万円となりました。流動資産の増加は、現金及び預金が1億41百万円減少したものの、商品及び製品が1億18百万円、仕掛品が22百万円増加したこと等によるものであります。固定資産は1億33百万円減少し、37億96百万円となりました。固定資産の減少は、投資その他の資産が1億49百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ83百万円減少し、77億76百万円となりました。流動負債は1億24百万円減少し、55億15百万円となりました。流動負債の減少は、買掛金が2億17百万円、短期借入金が2億50百万円増加したものの、電子記録債務が2億17百万円、契約負債が1億34百万円、その他流動負債が1億5百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は40百万円増加し、22億60百万円となりました。固定負債の増加は、社債が30百万円、繰延税金負債が32百万円減少したものの、長期借入金が1億11百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ21百万円増加し、37億16百万円となりました。純資産の増加は、配当金の支払1億12百万円及び当第3四半期において親会社株主に帰属する四半期純利益1億91百万円を計上したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年6月期の連結業績予想につきましては、2025年8月8日に公表いたしました「2025年6月期 決算短信」の通期連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,304,539	2,163,518
受取手形及び売掛金	930,888	941,079
商品及び製品	3,892,480	4,011,010
仕掛品	14,014	36,058
貯蔵品	3,594	2,824
その他	480,613	542,868
貸倒引当金	△1,303	△1,229
流動資産合計	7,624,826	7,696,130
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	767,247	766,176
土地	2,186,619	2,186,619
その他 (純額)	33,796	38,763
有形固定資産合計	2,987,663	2,991,559
無形固定資産	42,012	54,667
投資その他の資産		
差入保証金	721,098	711,407
その他	179,418	39,222
投資その他の資産合計	900,516	750,629
固定資産合計	3,930,193	3,796,856
資産合計	11,555,019	11,492,986

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	462,231	679,423
電子記録債務	484,499	266,511
短期借入金	2,480,000	2,730,000
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	394,719	368,904
未払法人税等	100,922	59,227
契約負債	620,345	486,136
賞与引当金	23,517	24,460
株主優待引当金	97,171	60,080
店舗閉鎖損失引当金	8,979	1,685
資産除去債務	24,783	1,974
その他	902,791	797,553
流動負債合計	5,639,960	5,515,957
固定負債		
社債	40,000	10,000
長期借入金	579,573	691,234
繰延税金負債	543,450	510,503
退職給付に係る負債	393,940	378,474
資産除去債務	544,991	554,172
その他	118,712	116,292
固定負債合計	2,220,667	2,260,677
負債合計	7,860,627	7,776,635
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	355,761	194,406
利益剰余金	3,166,716	3,407,448
自己株式	△7,747	△7,762
株主資本合計	3,614,730	3,694,092
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	57,420	18
その他の包括利益累計額合計	57,420	18
新株予約権	22,240	22,240
純資産合計	3,694,391	3,716,351
負債純資産合計	11,555,019	11,492,986

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
売上高	10,588,063	10,548,375
売上原価	4,482,100	4,594,277
売上総利益	6,105,963	5,954,097
販売費及び一般管理費	5,994,797	5,833,102
営業利益	111,165	120,994
営業外収益		
受取利息	1,398	3,334
受取配当金	2,538	2,795
受取保険金	62	274
その他	5,790	8,264
営業外収益合計	9,789	14,668
営業外費用		
支払利息	45,961	59,767
シンジケートローン手数料	—	48,870
株式交付費	6,225	—
その他	3,185	1,717
営業外費用合計	55,372	110,355
経常利益	65,582	25,308
特別利益		
投資有価証券売却益	—	217,501
特別利益合計	—	217,501
特別損失		
減損損失	145,693	—
固定資産除却損	817	0
特別損失合計	146,511	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△80,928	242,809
法人税、住民税及び事業税	86,134	60,140
法人税等調整額	3,765	△8,669
法人税等合計	89,900	51,470
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△170,828	191,338
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△170,828	191,338

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△170,828	191,338
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,404	△57,402
その他の包括利益合計	2,404	△57,402
四半期包括利益	△168,424	133,936
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△168,424	133,936
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	小売事業	出版・教育事業			
売上高					
外部顧客への売上高	8,261,323	2,326,739	10,588,063	—	10,588,063
セグメント間の内部 売上高又は振替高	701	50,632	51,333	△51,333	—
計	8,262,025	2,377,371	10,639,397	△51,333	10,588,063
セグメント利益	294,458	1,767	296,226	△185,060	111,165

(注) 1 セグメント利益の調整額△185,060千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△185,773千円及び未実現利益の調整額713千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、「小売事業」セグメント145,334千円、「出版・教育事業」セグメント358千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	小売事業	出版・教育事業			
売上高					
外部顧客への売上高	8,361,966	2,186,408	10,548,375	—	10,548,375
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,621	53,271	55,892	△55,892	—
計	8,364,587	2,239,680	10,604,267	△55,892	10,548,375
セグメント利益	323,969	10,718	334,687	△213,693	120,994

(注) 1 セグメント利益の調整額△213,693千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△213,982千円及び未実現利益の調整額289千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2025年9月26日開催の定時株主総会決議により、同日を効力発生日として、会社法第452条の規定に基づき、その他資本剰余金を49,392千円減少させ、同額を繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損填補を行っております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

1. 当座貸越契約 (借手側)

連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
当座貸越極度額	1,240,000千円	1,240,000千円
借入実行残高	630,000	730,000
差引額	610,000	510,000

2. シンジケートローン

前連結会計年度 (2025年6月30日)

当社においては、運転資金を安定的かつ機動的に調達することを目的として、2023年2月24日付で名古屋銀行をアレンジャーとする金融機関4行によるタームアウト型コミットメントライン契約を締結しております。この契約には以下の財務維持要件が付されており、下記の財務維持要件のいずれかに抵触した場合、金利の引き上げが行われます。

なお、2024年6月に終了する決算期において抵触いたしましたので、金利の引き上げのみがありました。

- ① 2023年6月に終了する決算期及びそれ以降に終了する借入人の各年度の決算期の末日における借入人の連結の貸借対照表における純資産の部の金額が、それぞれ2022年6月に終了する決算期の末日における借入人の連結の貸借対照表における純資産の部の金額の75%の金額以上であること。
- ② 2024年6月に終了する決算期及びそれ以降に終了する借入人の各年度の決算期に係る借入人の連結の損益計算書に示される償却前経常損益が、それぞれ2期連続して損失とならないこと。なお、初回判定は2023年6月期決算期及び2024年6月期決算期とする。

なお、これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年6月30日)
シンジケートローン契約極度額	2,900,000千円
借入実行残高	1,450,000
差引額	1,450,000

当第3四半期連結会計期間 (2026年3月31日)

当社においては、運転資金を安定的かつ機動的に調達することを目的として、2026年2月24日付で名古屋銀行をアレンジャーとする金融機関4行によるタームアウト型コミットメントライン契約を締結しております。

これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	当第3四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
シンジケートローン契約極度額	2,700,000千円
借入実行残高	1,600,000
差引額	1,100,000

なお、2023年2月24日付締結の名古屋銀行をアレンジャーとする総額29億円のタームアウト型コミットメントライン契約は、2026年2月27日をもって終了いたしました。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2024年7月1日 至2025年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2025年7月1日 至2026年3月31日)
減価償却費	55,710千円	61,747千円

(重要な後発事象)

(株式会社ヴォーグ学園の株式の譲渡について)

当社及び当社連結子会社である株式会社日本ヴォーグ社（以下、「日本ヴォーグ社」という。）は、2026年4月30日開催の取締役会において、当社連結孫会社である株式会社ヴォーグ学園（以下、「ヴォーグ学園」という。）の全株式を、株式会社ハルメク（以下、「ハルメク」という。）に譲渡する（以下、「本件取引」という。）ことについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2026年5月1日に譲渡いたしました。

#### 1. 譲渡の理由

当社グループは現在、中期経営計画に基づき、収益性向上へ向け、事業ポートフォリオの最適化を進めております。出版・教育事業につきましては、経営資源を中核事業である出版事業分野へ集中させ、グループ全体の資本効率を向上させるため、本株式譲渡を決定いたしました。

ヴォーグ学園の業績は安定しておりますが、当社グループの今後の戦略的方向性を検討した結果、ハルメクが有する経営ノウハウを活用することが、ヴォーグ学園の企業価値最大化において最善の選択であり、ヴォーグ学園のさらなる事業拡大およびサービスの向上に資すると判断いたしました。

本件取引によりヴォーグ学園は当社の連結範囲から除外されますが、引き続き重要な戦略的パートナーとして位置づけております。ハルメクが有する経営ノウハウと当社の業界知見を融合させることで、ヴォーグ学園のさらなる企業価値向上を図るとともに、当社グループの収益性改善にも寄与するものと判断しております。

#### 2. 譲渡の方法

日本ヴォーグ社が保有するヴォーグ学園の発行済株式の全部を、ハルメクに譲渡いたします。

#### 3. 異動する孫会社の概要

- ① 名称 株式会社ヴォーグ学園
- ② 事業内容 「ハンドメイド」を学び・楽しむカルチャースクールを運営

#### 4. 譲渡の相手先の名称

株式会社ハルメク

#### 5. 譲渡株式数、譲渡価額及び譲渡前後の所有株式数の状況

- ① 異動前の所有株式数 500株（議決権所有割合：100%）
- ② 譲渡株式数 500株
- ③ 譲渡価額 150,000千円
- ④ 異動後の所有株式数 0株（議決権所有割合：0%）

#### 6. 株式譲渡日

2026年5月1日

#### 7. 今後の見通し

本件取引によりヴォーグ学園は当社の連結範囲から除外されますが、その影響は軽微であります。なお、2026年6月期連結決算において、子会社株式売却益を特別利益に計上する見込みです。2026年6月期連結決算に与える影響は現在精査中であり、今後、開示すべき事項が発生した場合には速やかにお知らせいたします。